

玉川上水・野の花だより No. 27

チダケサシ

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 7月10日

玉川上水の第三号橋～笹塚橋の開渠エリアは、これまでも、お伝えしましたように、生物多様性の宝庫です。6月下旬～7月の間は、夏草に埋もれていますが、鮮やかなノカンゾウと対照的に、優美なチダケサシもさいています。

チダケサシは、全国各地の湿潤な場所にみられる野草で、アスチルベ (*Astilbe*) の仲間で、繊細なおもむきから、古くから人々に愛されてきました。

7月頃、上部に細長い円錐花序をだし、うす紅色から白の小さな花をたくさんつけます。姿かたちと、名前にギャップがあると思っていたのですが、調べたことはありませんでした。

牧野富太郎の解説を引用いたします。

「長野県の山地に住む人々はチダケ（傷をつけると白色の乳液を分泌する食用キノコの名前）をとるとこの草の茎にさし持ち帰ることに由来する」

風に揺らぐたおやかな姿とは、異なる由来の名称でした。

小さな野の花に人々が注いできた「まなざし」を、受け継いでいきたいと思います。都会の真ん中にも、宝物が、たしかに眠っています。



チダケサシ 2026年7月9日 大山緑道



チダケサシ 2026年7月1日
玉川上水（第三号橋～笹塚橋）右岸